

■ 戦略経営研究会 143rd ミーティング 議事録

日 時：2021年12月4日(土) 14:00-16:30

場 所：オンライン

テーマ：スマートクリニックによるベトナム進出

～データ管理や遠隔診療などデジタル技術の活用～

発表者：安部一真さん（メドリング株式会社 代表取締役CEO）

参加者：11人（財務コンサルタント、大学教員、会社経営、会社員、税理士、
NPO法人理事長、行政書士、司法書士等）

目次：

1. スマートクリニックチェーン「METiC」とは？
2. ベトナムの医療事情と課題
3. 課題解決のためのスマートクリニック
4. まとめ ～東南アジア視点で、将来の日本の医療を見る～

発表：

1. スマートクリニックチェーン「METiC」とは？

スマートクリニックチェーン「METiC」をベトナムに進出させています。将来的には、インドネシア、フィリピンへの進出も目指しています。コンビニエンスストアのようなクオリティを実現しています。ハノイのイオンモールにて直営店を営業しています。スキルのある日本の医師が遠隔でサポートしています。セントラルキッチンをイメージいただく感じです。この直営店を基盤としたフランチャイズ展開をしていきます。

2. ベトナムの医療事情と課題

ベトナムは医師の数が少なく、クオリティも高いといえないです。日本人から見ると、疑問を感じる診察をしています。ベトナム人の医師は紙カルテを使っていますが、カルテに経過を書き込まないこともあります。このため、患者の経過を診ながらの診療ができないこともあります。ベトナムの公的保険では、指定の病院しか行くことができません（フリーアクセスではない）。それ以外は、自費診療になってしまいます。医師へアンダーテーブルマネーが必要なときもあるようです。

クリニックは患者集めに苦労しています。大病院に患者が集中しているからです。このため、大病院では混雑が常態化しています。クリニックは1つのベッドに2、3人が寝ていることも珍しくありません。診療費が少し安くなります。しかし、他の患者から感染症をもらう可能性がありあす。ベトナム人にとり、クリニックは相当な急性期の症状などやむにやまれず行くところになっているようです。これらのことは、ベトナムだけでなく東南アジア全体に言えるこ

とです。すなわち、わたしたちは「東南アジアにおける一次医療(クリニック)の機能不全」を解決すべき課題と認識しています。

3. 課題解決のためのスマートクリニック

この課題の解決のために、クラウド型診療支援システム「MEDi」を中心に提供しています。「METiC」はテクノロジーを活用した日本式スマートクリニックです。予約→受付→問診→会計→検査→診断→治療→処方という全診療フローをデジタル化し、コスト減とサービス向上を行っています。本部の医師が現地の医師の意思決定を支援しています。これにより、現地の医師のクオリティを担保することができます。なお、フローの途中で会計をはさむのは、金銭のことは一切信用できないからです。「MEDi」はクラウド型電子カルテ+レセプトコンピュータです(ベトナムの公的保険に対応できるようになっています)。完全自社開発です。現場目線で作っています。オンライン診療や AI との連携もできます。本部はオペレーション統括・システム提供・診断支援の3本柱を直営店・FC 点に提供します。信用力を与える存在です。

現在、FC 契約を複数事業者と交渉中です。2025-2030 年には、ASEAN 各国、合計 300 超を目指しています。また、日本の医療機関との連携も進めています。現地の医師へのレクチャーや、ベトナム人 VIP 患者の受け入れなどを行います。

4. まとめ ～東南アジア視点で、将来の日本の医療を見る～

テクノロジーに日本の医療を込めます。具体的には予防医療やサプリメントの組み合わせです。ミッションは DX For Universal Health Coverage です。医療サービスを安く提供し、さらにサステイナブルであることを目指しています。医療サービスの工数を少なくし、患者からたくさん診療費をいただくずに、利益を出すことができます。公的資金に依存しないモデルを目指しています。日本は公的保険があるので、診療費の価格をいじりません。日本の医師・医療は優秀です。しかし、これは公的資金に支えられているからです。日本の医療がいつか公的資金に依存できなくなった時に、日本に必要なモデルと考えています。

グローバル視点、東南アジア視点はビジネスに必要です。日本だけを見ないことです。このような視点はみなさんのビジネスにもプラスになるのではないのでしょうか？

以上